

全国縦断仕事おこしシンポジウム

感想



仕事おこし・まちづくりを考える市民の集いin うえだ」を開催して

実行委員会事務局長 石坂誠 (労働者協同組合ながの)

「地域の企業・組合などの団体や個人が自発的な学習により計画を立て、自主的な技術開発をもとにして、地域の環境を保全しつつ資源を合理的に利用し、域内経済循環を重視し、その地域の文化・教育に根ざした経済発展をしながら、地方自治体と住民組織のパートナーシップで住民福祉を向上させる地域発展を内発的発展と呼ぶ」

上記の言葉は、宮本憲一先生の著書「日本社会の可能性」(岩波書店、2002年)からの引用で、先生が内発的発展を定義されたものです。

今回の長野県上田市での市民の集いでは、この内発的発展を核にした基調講演、シンポジウムを企画しました。内発的発展という理論こそが、仕事おこし・まちづくりにとって決定的なものになると思ったからです。

基調講演の宮本先生はもちろん、シンポジストのみなさんも内発的発展を担う分野(環境、福祉、NPO法人、農業、行政)で実践活動を行っている方をお願いしました。

また、シンポジウムがその場だけの打ち上げ花火というか、言い放しのもので終わらないためにも、シンポジスト全員を東信地域の方に限定し、終了後のつながりまで意識しました。この点に関しては、塩田平の休耕田で菜の花を栽培するので、その利用後の廃油

を畠中さん(シンポジスト)のところで扱ってほしいという申し出があったということで、みごとに基調講演とシンポジウムがつながってしまいました。

さて、内発的発展とともに今回の企画のもう一つのコンセプトは、環境保全という枠組みのなかで経済発展を考える、環境-経済-福祉を統一したフレームで捉える、ということでした。現在、各地でNPO法人等の市民組織が燎原の火のごとく広がっていますが、どうしても分野ごとのつながりになっており、分野を横断するネットワークまでは至っていないのが現状です。「縦割り」にならなためにも、いまから様々な分野が交流していくということが重要という想いからも、多種多様なシンポジストの方々になりました。

さまざまな立場・団体・分野の方々の発言だったため、うまくかみあっていなかったというお叱りもうけましたが、今後はこうした地域内の多種多様な産業や市民活動等の連関こそが必要だと思えます。

宮本先生の言われる完全循環型社会への道を切り拓いていくためにも、今後も各地でこうした集いを開催していくことの必要性を感じています。